

# みずほマーケット・トピック(2020年1月31日)

## 週末版

### 内容 1. 為替相場の動向

### 2. 来週の注目材料

3. 「本日のトピック」はお休みさせていただきます。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照くださいませ。

### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半に安値をつける展開。週初 27 日に 108 円台後半でオープンしたドル/円は、コロナウイルスの感染拡大を懸念する流れが継続し上値の重い展開。アフガニスタンのタリバンが米国のスパイ機を撃墜したとの報道に円買いが強まるも、途中ドル買いが入りつつ 109 円前後での推移が続いた。28 日は FOMC を控え積極的な取引は控えられたが、前日の株の下落は過剰との見方が強まり、米株先物と米金利が上昇し小幅にドル高が進んだ。29 日は日本株が堅調に推移し 109 円台前半を推移した。その後、米中古住宅販売仮契約が予想を大きく下回るとドルは下落。FOMC 後のパウエル FRB 議長の会見では、FRB の T-Bill 購入がいずれ延長されるとの見方が強まり、米金利が低下し、ドル/円も 109 円付近まで連れ安となった。30 日はアジア株が下落する展開に円が買われ、じり安が続いた。NY ダウ平均株価が下落し、引き続き米金利が低下する展開にドルは再び値を下げ、米国内で人から人へのコロナウイルス感染が明らかとなると、一時週安値の 108.58 円まで下落した。その後は感染阻止に向けた中国の対応が評価され楽観ムードとなったこと、米大手企業の決算発表が好感されると 109 円付近まで値を戻した。本日は 109 円手前での推移が続いている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に高値をつける展開。週初 20 日に 1.10 台前半でオープンしたユーロ/ドルは、独 1 月 IFO 業況指標でサービス業が落ち込む結果を受け 1.10 付近まで下落した。その後はユーロ買戻しの動きがあるも、上値は重い展開が続いた。28 日は、海外市場でドル買いが優勢となりじり安の展開。その後も米 1 月消費者信頼感指数の結果が好感されドル買いは続き、1.10 を割り込んだものの、後半は株高の影響を受け 1.11 台前半まで値を戻した。29 日は FOMC 前に下落し、一時週安値の 1.0992 をつけたが、FOMC 後に FRB の T-Bill 購入が延長されるとの見方が強まるとドル売りに押され 1.10 台を回復した。30 日は、米金利が一時 1.54% を下回る動きに一時週高値の 1.1039 まで上昇したが、コロナウイルス感染拡大に悲観ムードが強まると、米金利が 1.59% 台まで戻りユーロ/ドル上昇は一服した。本日は 1.1030 台で推移している。

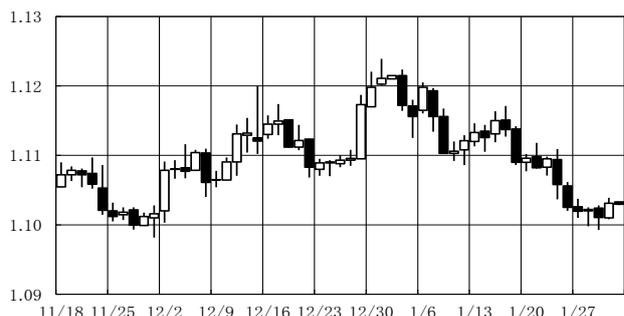
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		1/24(Fri)	1/27(Mon)	1/28(Tue)	1/29(Wed)	1/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.57	108.80	108.93	109.14	108.99
	High	109.65	109.13	109.20	109.27	109.06
	Low	109.18	108.73	108.76	108.98	108.58
	NY 17:00	109.27	108.92	109.16	109.01	108.94
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1055	1.1025	1.1019	1.1023	1.1014
	High	1.1062	1.1038	1.1025	1.1028	1.1039
	Low	1.1019	1.1010	1.0998	1.0992	1.1007
	NY 17:00	1.1025	1.1020	1.1022	1.1011	1.1031
ユーロ/円	東京9:00	121.09	119.98	120.03	120.28	120.05
	High	121.27	120.41	120.32	120.44	120.23
	Low	120.41	119.92	119.82	119.90	119.77
	NY 17:00	120.49	119.98	120.30	120.01	120.19
日経平均株価	23,827.18	23,343.51	23,215.71	23,379.40	22,977.75	
TOPIX	1,730.44	1,702.57	1,692.28	1,699.95	1,674.77	
NYダウ工業株30種平均	28,989.73	28,535.80	28,722.85	28,734.45	28,859.44	
NASDAQ	9,314.91	9,139.31	9,269.68	9,275.16	9,298.93	
日本10年債	-0.03%	-0.05%	-0.04%	-0.04%	-0.06%	
米国10年債	1.68%	1.61%	1.66%	1.58%	1.59%	
原油価格(WTI)	54.19	53.14	53.48	53.33	52.14	
金(NY)	1,571.90	1,577.40	1,569.80	1,570.40	1,583.50	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、2月3日(月)と5日(水)に1月ISM製造業/非製造業景気指数が発表される。前回12月の結果はそれぞれ47.2、55.0であった。製造業指数については2009年6月以来の低水準で、米中協議の第一段階の合意の報道などで景況感改善の期待が増していたものの、景気の拡大と縮小の分かれ目となる50を5か月連続で下回ったばかりか、11月の48.1も下回った。詳細を見ると、生産が不調で、11月と比較して5.9ポイント悪化した。そのほか、18業種のうち15業種で活動が縮小し、特に衣料品や木材製品が低調な結果となった。これにより、昨年1年の年間平均は51.2となり、18年の58.8から7.6ポイント悪化した格好だ。一方、非製造業については、4か月ぶりの高水準となり、17業種のうち11業種で活動が拡大し、小売や娯楽部門が改善に寄与した。年間では、昨年の平均が55.5となり、18年の58.9から3.4ポイント悪化した。昨年は両指数の差がほとんどない状態(0.1ポイント)であったものの、今年については4.3ポイントの差がついており、製造業部門の今後の巻き返しは引き続き課題となりそうだ。なお、ブルームバーグは、1月のISM製造業/非製造業景気指数をそれぞれ49.0、55.0と予測しており、前月から横ばいなし、緩やかな改善を見込んでいる。そのほか、中銀関連では4日(火)にボスティック・アトランタ連銀総裁が、6日(木)にはカプラン・ダラス連銀総裁が講演を行う予定。
- ユーロ圏では今晚31日(金)に昨年10～12月期GDP(速報)の発表を控える。前回7～9月期の結果は市場予想を若干上回る前期比+0.2%、前年比+1.0%の成長となった。要因としては、ドイツの結果が予想ほど深刻でなかったこと(各+0.1%、+1.0%)やフランスを始め西欧諸国で堅調な数字を残した国が多かったことが挙げられた。ブルームバーグでは、今回の見込みを前期比+0.2%、+1.1%としており、横ばいから緩やかな拡大を予測している。また、同日にユーロ圏1月CPI(速報)の発表も控えている。昨年12月CPIの結果は前年比+1.3%と8か月ぶりの高い数字を記録し、コアCPIも同+1.3%で昨年秋口を底として緩やかな上昇が続いている。とはいえ、現状ECBが金融引き締めを目安とする物価水準(2%未満だがこれに近い水準)からはまだ遠い状況だ。ところで、先週23日にECB政策理事会が開催されたが、そこでは金融政策の現状維持のほか今後の戦略見直しに着手した点が言及された。その一環で「物価安定に関する定量的な定義」にて、ECBが金融引き締め目安とする物価水準を現行より引き上げる、具体的には2%以上の物価上昇を容認する方向で検討していることが大きな注目を集めた。この点からも、ECBが物価水準の回復を見ながら、金融政策を緩和的としていく方針であることは想像に難くない。なお、ブルームバーグの予想では、1月CPI上昇率を前年比+1.4%と予測している。

	本 邦	海 外
31日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月失業率 / 有効求人倍率</li> <li>12月鉱工業生産(速報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米12月PCEコアデフレーター</li> <li>ユーロ圏10～12月期GDP(速報)</li> <li>ユーロ圏1月CPI(速報)</li> </ul>
2月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月製造業PMI(確報)</li> <li>1月自動車販売台数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米1月ISM製造業景況指数</li> <li>米1月製造業PMI(確報)</li> </ul>
4日(火)	—————	<ul style="list-style-type: none"> <li>米12月製造業受注(確報)/ 耐久財受注(確報)</li> <li>ユーロ圏12月PPI</li> </ul>
5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月サービス業PMI(確報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米1月ISM非製造業景気指数</li> <li>米12月貿易収支</li> </ul>
6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月東京オフィス空室率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米新規失業保険申請件数</li> <li>独1月建設PMI</li> </ul>
7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月家計支出</li> <li>12月景気動向指数(速報)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米1月雇用統計</li> <li>独12月経常収支/鉱工業生産</li> </ul>

### 【当面の主要行事日程(2020年2月～)】

G20 財務相・中央銀行総裁会合(2月22～23日、4月16～17日)  
 ECB 政策理事会(3月12日、4月30日、6月4日)  
 日銀金融政策決定会合(3月18～19日、4月27～28日、6月15～16日)  
 米FOMC(3月17～18日、4月27～28日、6月9～10日)

市場営業部  
 チーフマーケット・エコノミスト  
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年1月30日	FOMCを終えて～新型コロナウイルスリスクと減速軌道の米国～
2020年1月29日	メインシナリオに関するリスク点検
2020年1月28日	デジタル通貨を巡る4大勢力～群雄割拠を読み解く～
2020年1月27日	疫病リスクと金融政策への影響などについて
2020年1月24日	週末版(ECB政策理事会を終えて～やや先走り感のあるラガルド総裁～)
2020年1月22日	日銀金融政策決定会合～「政熱経冷」という連～
2020年1月21日	ECB政策理事会プレビュー～底打ち機運に乗り静観～
2020年1月20日	米大統領選挙と為替～潜む一抹の不安～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年12月分)
2020年1月17日	週末版
2020年1月15日	「1998～99年」との違いはどこにあるのか～その～
2020年1月14日	中国の為替操作国認定解除を受けて～ドル売り介入の催促～
2020年1月10日	週末版(「調達通貨は円よりユーロ」の答え合わせ～中東リスクを前に～)
2020年1月9日	予防的利下げの成否～'98年型利下げ、'99年型利上げ～
2020年1月8日	軍事衝突と原油高への考え方～円高は不幸中の幸いか？～
2020年1月6日	2020年、レンジ脱却に必要なもの～その～
2019年12月25日	2020年、レンジ脱却に必要なもの
2019年12月24日	2020年の想定外はどこにあるのか？～6つの論点～
2019年12月23日	スウェーデン、マイナス金利解除の読み方～2020年への示唆～
2019年12月20日	週末版
2019年12月19日	米大統領選挙の左派リスクは2020年の波乱要因か？
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年11月分)
2019年12月18日	やはり上げを失ったボンド相場～政治も金融もボンドの足枷～
2019年12月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2019年12月16日	英総選挙を終えて～「次の山」は2020年6月末に～
2019年12月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～フクロウ型総裁の「人となり」～)
2019年12月12日	FOMCを終えて～「タカ派的利下げ」から「ハト派的現状維持」～
2019年12月11日	円の基礎的需給環境～基礎収支に映る変化～
2019年12月10日	道標を失った為替市場～マイナス金利解除がキーに？～
2019年12月9日	英国総選挙の論点整理～事実上、2度目の国民投票、～
2019年12月6日	週末版(2019年の為替市場を概観する～円は結局強かった～)
2019年12月5日	ECB政策理事会プレビュー～デビュー戦、3つの見どころ～
2019年12月3日	ドイツ政局の流動化について～メルケル退任まであと2年～
2019年12月2日	金融政策に環境配慮は必要か？～制御すべきは気候ではなく物価～
2019年11月29日	週末版
2019年11月26日	円安リスクの点検～「ツゲ」が怖い2020年～
2019年11月25日	名目実効為替相場(NEER)で読む2019年のドル相場
2019年11月22日	週末版(ドラギ元総裁、最後のECB政策理事会議事要旨～「結束(unity)」と財政政策～)
2019年11月20日	「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年10月分)
2019年11月19日	ドイツは底打ちしたのか？～リセッション回避も残る不安～
2019年11月18日	「株価の崩」と「予防的緩和」について考える
2019年11月15日	週末版(ラガルド体制の「overhaul(刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～)
2019年11月14日	欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～
2019年11月13日	円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み
2019年11月12日	動かない相場の背景にある「円の不人気」
2019年11月11日	「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様相に
2019年11月8日	週末版
2019年11月1日	週末版
2019年10月30日	ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点
2019年10月29日	円安リスクの点検～欧州・中国の復調はあるか？～
2019年10月28日	ドラギ総裁最後のECB理事会～危機の「生き字引」～
2019年10月25日	週末版
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円」以下という異例～
2019年10月23日	「リブラ」阻止で一致するG20～ザッカーバーグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期？～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか？
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレーガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合プレビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～APP再開は困難だが、露払いはいはしたいところ～)
2019年9月5日	プレグジットを巡る論点整理～ボンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場の関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版
2019年8月29日	ユーロ圏投資ファンド統計に見るポートフォリオリバランス効果
2019年8月27日	円安リスクの点検～警戒すべきトランプ減税第二弾～
2019年8月26日	円高・ドル高という地合い～105円割れを受けて～
2019年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～9月のパッケージ緩和が濃厚に？～)
2019年8月22日	FOMC議事要旨を受けて～「調整」の誘惑、日銀の経緯～
2019年8月21日	ドイツのIS/バランスは遂に変わるのか？
2019年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年7月分)
2019年8月19日	YCC、捨てる日銀と拾うECB